

「誰か × 誰か」「誰か × 何か」の組み合わせが面白い。

料理 × ミステリー

「料理で読むミステリー」
貝谷郁子 / 著 NHK出版

皆さんは本に出てくる料理を食べてみたいと思った事はありませんか？この本は題名の通り、料理でミステリーを読む1冊。
なかなか結びつかないような組み合わせですが、海外ミステリーにはとても美味しそうな料理がたくさん出てきます。作品に出てくる料理から、事件の背景まで説明されていますので、作品を知らなくても楽しめます。ミステリー小説の読書案内としても、レシピ本としても読める一石二鳥な本。(坂井)



図書館職員がやってみました。



※絵本と実物を図書館内に展示しています。また、制作過程を facebook にて公開しています。

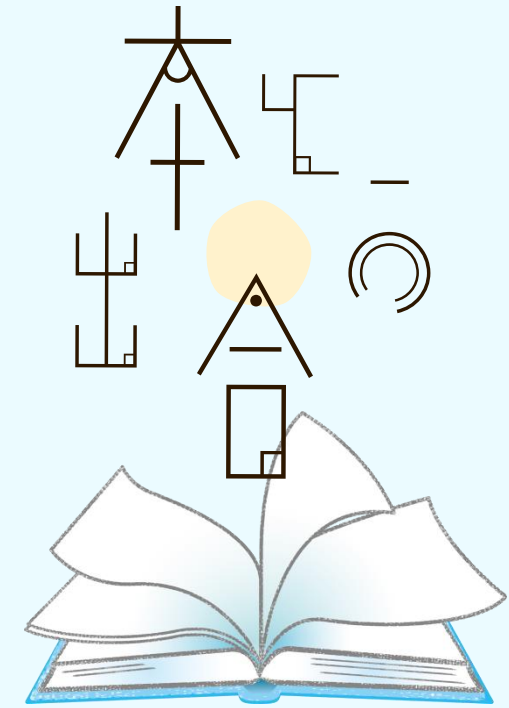
こんにちは。手芸担当丸山です。しかし、最近あまり手芸っぽくないものばかり作っているような…。ここは一度、基本に立ち戻る必要があるのでは!? というわけで、今回は手芸の王道(?)、刺繍に挑戦です。

今回の本は『エリザベス女王のお針子』。タイトル通り、お針子の少女アアリーが主人公のミステリーです。

この本の中でキーアイテムとなっているのがマント。メアリーが黒いベルベツト地にコマドリやヒイラギなどの美しい模様を刺繍していく過程が、丁寧に描かれています。今回はそのモチーフを使いながら、埃よけのカバーを作ってみました。しかし、にわかお針子の私がやると歪んだり粗くなってしまう…。難しい！雰囲気だけでも伝われば幸いです。(丸山)

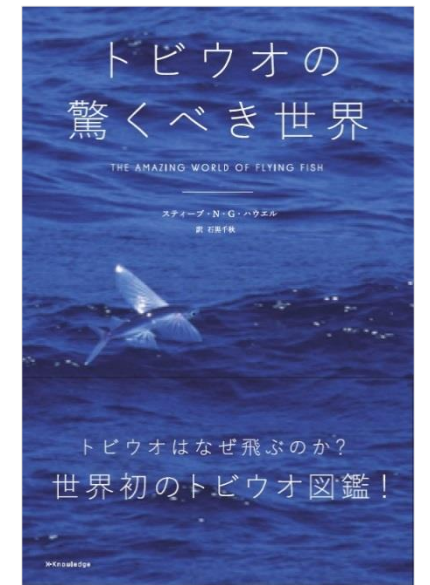
「エリザベス女王のお針子」
ケイト・ペニンントン / 作 徳間書店

ちよい TOP IX



館長が紹介する「印象に残った一文」とは？

「水面で飛び跳ねることができる魚はたくさんいるが、芸術の域にまで洗練された飛行をするのはトビウオだけだ。」



「トビウオの驚くべき世界」
ステイプ・N・G・ハウエル / 著
エクスタレッジ

「はじめに」の中に書かれたこの一文。何を大げさな…、と思われるでしょうか？しかし、ここに掲載された数々の写真を見れば、決して大げさな言葉でないことがわかるでしょう。「跳ぶ」ではなく「飛ぶ」という言葉がふさわしい、優美で洗練された姿は、神秘的ですらあります。私も思わずバードウォッチングならぬトビウオウォッチングに出かけたくなりました。(丸山)



宇宙旅行を楽しむジンとフィリス。彼らはある日宇宙空間を漂うピンを拾います。中には細かい字でびっしりと書き込まれた薄手の紙。地球語をマスターしていたジンはフィリスに急かされ、その手記を読み始めます。そこには地球から飛び立った宇宙船に乗り、猿の惑星に降り立った、人類の話が書かれています。



原作「猿の惑星」
ピエール・ビール / 著 東京創元社
映画「猿の惑星」
チャールトン・ヘストン、
ロディ・マクドウォール / 出演

今まで信じていた常識が覆った世界で生きていく主人公の戸惑い、それでも何とか生きていこうとする人間の強さが描かれます。しかし、この映画の有名なシーンはやはりラスト。とあるものを見つけてしまった主人公が、この猿の惑星の真実を知るシーンです。じつは原作とはこのシーンが違います。どう違うかは原作をみなさん読んでください。ただ、原作でもラストに驚く事は間違いありません。あなたは映画と小説、どちらから読みますか？(大塚)

今回は『Another』です。お楽しみに！



第26回

原作本から入ってもよし、映画から入ってもよし。